

鳥信 WEB 版 2022 年 2・3 月号

〈筑後エリア〉

* 12 月 12 日 クロツラヘラサギ・大和干拓南側クリーク 松富士将和

八女市で矢部川をつなぐ会の流域治水シンポジウムで、午前中に新潟大学の講師の先生を案内して矢部川河口域を案内しました。大和干拓堤防内側のクリークにクロツラヘラサギ 2 羽がいました。手前の 1 羽は大きな魚をくわえていましたが魚の名前は不明です。

大和干拓でのクロツラヘラサギの確認は初めてでした。



△クロツラヘラサギ 撮影：松富士

* 12 月 27 日 ミヤマガラス・久留米青峰 松富士将和

鳥信で募集する鳥が「ミヤマガラス」だったので、我家の裏の林に来たミヤマガラスの報告をします。

ねぐらではなく、明星山麓のねぐら入りする前の、集合地ですが結構騒々しいです。

数は、見える範囲でざっと 300 羽ですが、左右にもまだ林がありますので、優に 500 羽は居ると思います。



△ミヤマガラスの群れ 撮影：松富士



△ミヤマガラスの群れ 撮影：松富士

* 1月9日 コチョウゲンボウ * 雌1・久留米市荒木町 溝田泰博

荒木町から十連寺公園に向かう道路沿いの電線に止まっているコチョウゲンボウのメスを見ました。

*1月10日 筑後広域公園の野鳥 江口浩喜

目玉は、シマアカモズ1羽…去年の12月18日初認後、ずっといるようです。

モズに比べやけに腹は白っぽく見え、過眼線が黒く、脇にウロコ模様があり、雌タイプ？かなと思います。

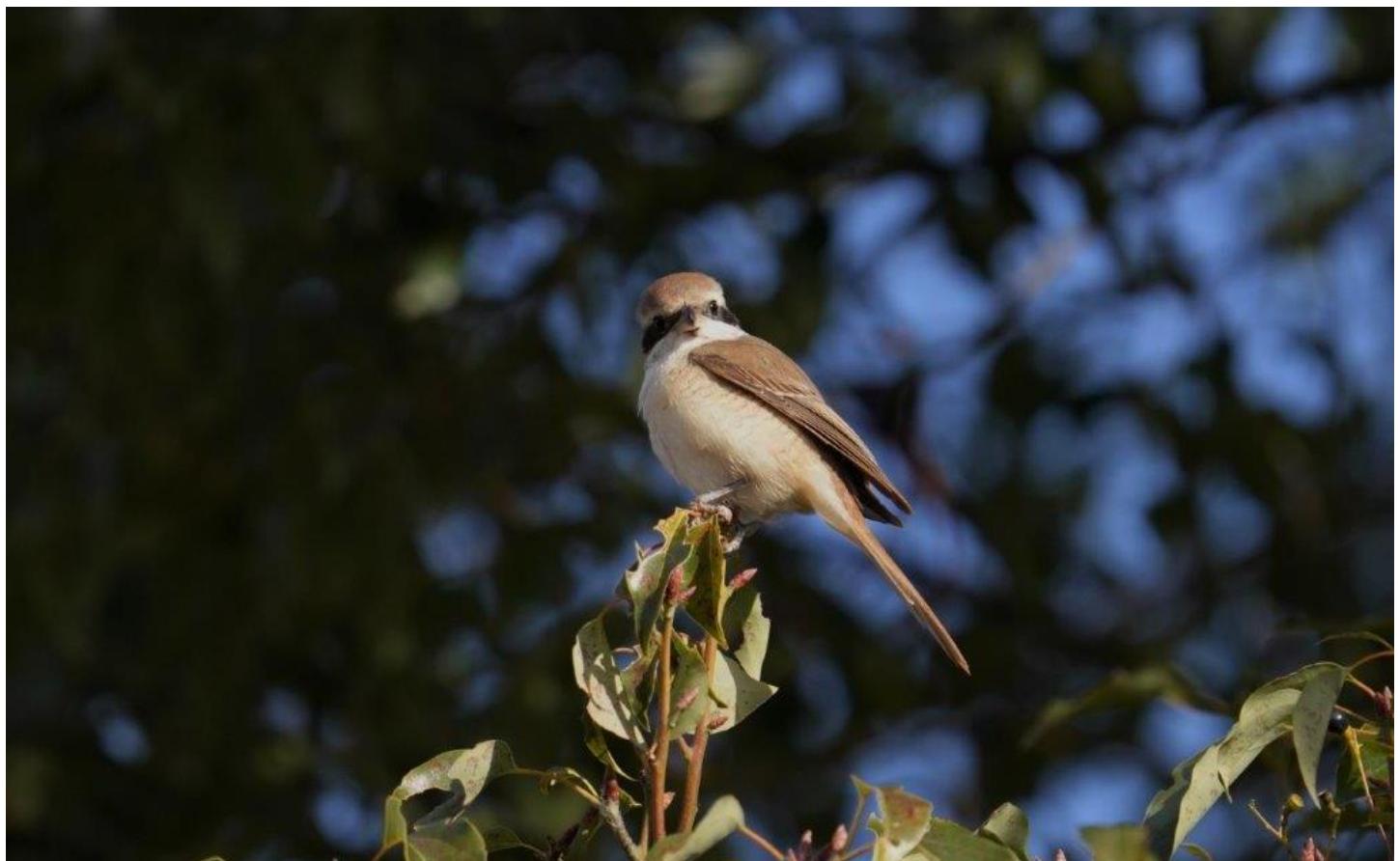
アメリカヒドリ雄1羽…ヒドリガモの群れの中にいました。

その他、以下の鳥を観察しました。

ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、カツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クイナ、ヒクイナ、バン、タシギ、イソシギ、ミサゴ、カワセミ、モズ、カササギ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 合計36種



△アメリカヒドリ 撮影：江口



△シマアカモズ？ 撮影：江口



△シマアカモズ？ 撮影：江口

*1月20日 「シマアカモズ」の記録訂正 江口浩喜

筑後広域公園の鳥信で、シマアカモズ雌1羽ということでお伝えしましたが、アカモズの亜種カラアカモズではないかというご指摘をいただきましたので訂正します。
以下、いただいたご意見です。

アカモズ類は日本の鳥類識別で最も難易度の高いテーマの一つですね。

種としてはアカモズで大丈夫だと思いますが、亜種の判定が問題となります。

亜種アカモズ、亜種シマアカモズではないのは明らかなので、消去法的には亜種カラアカモズまたはウスアカモズとなります。

この2亜種、識別点が結構曖昧で、シノニムとか交雑個体群とか諸説あるようです。

亜種の分類に問題があることや、観察記録が論文化されていないことから、日本の鳥類目録には採用されておらず、検討中とされています。

おそらく亜種カラアカモズだと思うのですが・・

アカモズ、モウコアカモズ、セアカモズ、モズは個体差も大きく、交雑もありそうなので、グラデーションのようにいろんな個体がいて、正確な判別ができない例も多いように思います。

アカモズの福岡での越冬期の記録はあまりないので、貴重な記録だと思います。

シマアカモズとの違いは、頭頂、背面の色味ですね。

シマアカモズだと頭頂は灰色味が強く、背面は暗灰褐色となり、後頸と背面に色の差があります。

写真の個体はどちらかというと亜種アカモズに近い感じですが、アカモズだと背面、頭頂とも明るい橙褐色で眉斑・額がはっきり白くなります。

*1月20日 「シマアカモズ」の記録訂正に対する意見 石橋(信)

江口さんからシマアカモズの記録を訂正してカラアカモズとするとありました。筑後広域公園で撮った私の写真の中にシマアカモズらしき特徴が写ったものがありました。

「鳥くん野鳥図鑑第3版」 P085 に 「亜種シマアカモズ 1W (11月) ♀」 通眼線後方や後頭部に灰色味が有ると記載されています。

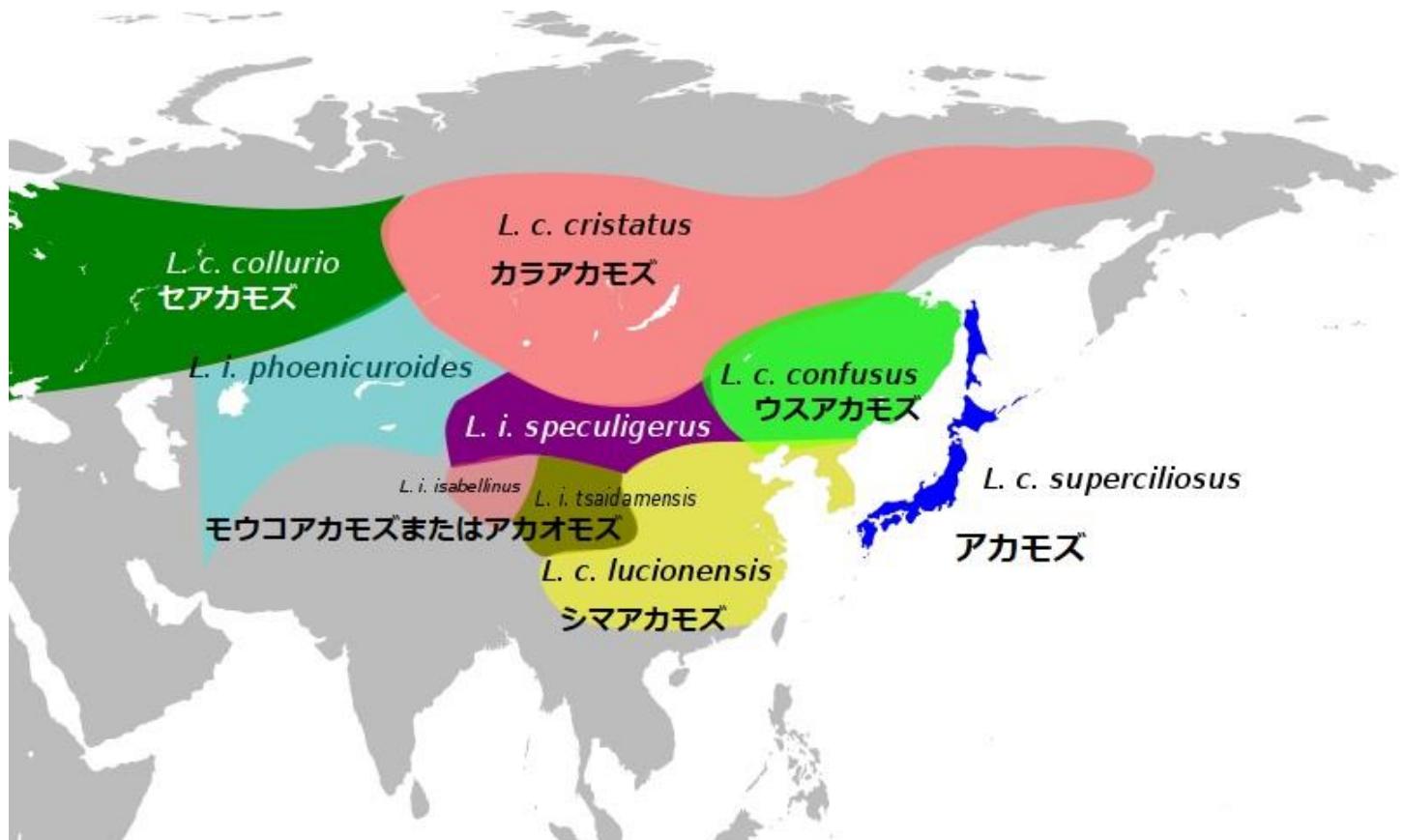


△シマアカモズ？ 後頭部が灰色 2022年1月16日・筑後広域公園 撮影：石橋(信)



△シマアカモズ？ 後頭部が灰色 2022年1月16日・筑後広域公園 撮影：石橋(信)

アカモズ類の分布についての解説（池長）



△アカモズの亜種と近縁種の繁殖分布域(Wikipedia の Brown shrike の繁殖分布図に和名を追加)

種アカモズ(学名：*Lanius cristatus*)には 4 亜種が知られていますが、このうち主に樺太から本州中北部で繁殖している亜種アカモズと朝鮮半島から中国東南部に繁殖分布しているシマアカモズの 2 亜種のみが日本鳥類目録に掲載されています。シマアカモズは過去に九州からの繁殖記録もありますが近年は確認されていません。アカモズはどの亜種も渡りをすることが知られていて、上の分布図は繁殖期の生息域ですが、冬期はいずれも南アジアから東南アジアにかけて越冬分布します。そのため、日本で正式に記録されていない他の 2 亜種も移動の途中で日本を通過したり、迷行することも十分考えられ、それらと考えられる観察例や写真もあります(ネット検索してみて下さい)。

また、アカモズの各亜種と近縁種であるセアカモズ(学名：*Lanius collurio*)やモウコアカモズ(または、アカオモズ・学名：*Lanius isabellinus*)と繁殖域が隣接していることから、しばしば種間、亜種間の交雑も生じています。さらにそのような交雑個体は、通常の各種個体の渡りとは異なる渡り行動を生じやすいと考えられ「変なモズ」として観察されるケースがあるようです。

国内で冬期に観察されるモズの仲間としては留鳥として冬には雄と雌がそれぞれなわばりをもつモズ(学名：*Lanius Bucephalus*)、稀に冬鳥として渡来するオオモズ(*Lanius excubitor*)とオオカラモズ(*Lanius sphenocercus*)が知られています。

アカモズ類の越冬地は通常、どれも日本よりも南に位置していますので、いただいたご指摘にありますように、九州でのアカモズ類の越冬は稀な事例となります。

今回、筑後広域公園で観察された個体は翼に白斑が見えないことからモズではなくアカモズのようですが、亜種の判定は難しいと思います。胸から脇にうろこ模様が見えることから、雄成鳥ではなく、雌または若鳥ですが、その場合、雄に比べて亜種の特徴が表れにくいという傾向があります。

石橋さんに定期用いただいた画像では、後頭から背にかけて灰色が認められることからシマアカモズ的な特徴を残していますが、一方、額は褐色なので別の亜種の可能性も示しています。

春までいて、羽衣が変われば特徴が出てくるかもしれません。

*1月10日 スズメ・久留米市青峰 松富士将和

筑後広域公園も、シマアカモズや、アメリカヒドリ雄などいろいろいますね！

我家では、一時いなくなっていたスズメたちがエサ台に戻ってきました。私が外に出ると、金木犀の上に避難・待機しています。全部で40羽ほどです。

今年は、まだメジロが来ていません。シロハラも見ていませんし、ジョウビタキも一度来たきりです。どうなっているんでしょうか。



△自宅に来たスズメの群れ 撮影：松富士



△自宅に来たスズメの群れ 撮影：松富士

<近隣エリア>

* 12月19日 ヤツガシラ・玉名市横島干拓 松富士将和

毎年開催している横島干拓探鳥会ですが、今回は、久留米では小雨だったためか、探鳥会の参加者は少なく、リーダーの私と案内役の熊本県支部の方を含め5人だけでした。

何と、ヤツガシラをじっくり観察できました！

ヤツガシラは、私も初めてで、ラッキーでした。

他にも、クロヅル、ハイイロチュウヒなど62種も観察できました。



△ヤツガシラ 撮影：松富士

<その他の地域>

* 12月 17・18日 鹿児島県出水の干拓地で見た面白い鳥たち 溝田泰博

ツル観察センターがある西側にはナベヅルやマナヅルなど見慣れたツルたちはいましたが、それ以外は、比較的鳥も少ない印象でした。

しかし、東干拓に移動するといいました。まず、ソデグロヅルが目の前に現れ、車の中からでしたが、あまり、警戒心もないようでした。クロヅルやカナダヅルも比較的近くから観察できました。間近で観察することができた鳥では18羽のクロツラヘラサギと3羽のヘラサギです。これも車の中からですが、水路を隔て、10m位の距離からゆっくりと観察することができました。

さらに、福ノ江町の琴平神社ちかくでヤマシギを間近に見ることができ、そのエサを探し回る様子をゆっくり観察することができました。



△ソデグロヅル 撮影：溝田



△ヤマシギ 撮影：溝田

*12月30日 福岡市志賀島のカツオドリ 野田(美)

今日は鳥見納ということで、志賀島にカツオドリを見に行ってきました。かなりの強風と高波でしたが、カツオドリは十分に観察できました。



△カツオドリ 撮影：野田(美)